

ひとと空間を科学する

topic
1

海外研修先から 

生活を視点でとくイギリスの都市計画 ～フットパス編～

4月から一年間、イギリスのOxford Brookes Universityで研究をしています。来年度からの授業でも扱いますが、日本が明治維新後の新しいまちづくりを始めた際に大きく影響を受けた国イギリスの住環境をご紹介します。

フットパスという言葉は知っていますか？日本では町田市で充実したフットパスのマップが作成されています。Foot Pathは文字通り訳せば「歩道」で、一般の道路の歩道も意味しますが、ここで紹介したいのは野山を歩く散歩道です。イギリス中にフットパスとして指定された道があり、公有地や私有地（特に放牧地が多いです）の中へもゲートを開けて自由に入出りできるというルールのある道です。
(写真a～c)



牧草地や畑の中にあるフットパスの典型。



飛行機の滑走路を兼ねた道、ゴルフ場の中の道、色々な所にフットパスはあります。



牧草地の入り口などにはゲートや、柵を乗り越えるためのステップ（写真c）があります。

これはRight of Way（歩く権利・通行する権利）が人々に与えられていることを意味し、OSマップという日本で言えば国土地理院のような公的機関の発行する地図にも明示されています。このように私有地内を歩くことができるようになったことの発端は1932年まで遡り、労働者が自分達も自然を楽しみたいと地主と交渉する等した結果なのだそうです。



道の左側の木々が幅10mから20m程度の森として残されています。



通常の道に出られる所が数箇所あります。



フットパス内は、町の中にいることを忘れられる空間です。

フットパスを歩こうというグループは数多くあり、全国的なネットワーク組織もあります。季節の良い時期には、オックスフォード州の中だけでもウォーキングの会がほぼ毎日開催されていて、予約等不要で気軽に参加することができます。ウォーキングの会を開催するだけでなく、フットパスの維持等のボランティア活動、地図を読む講習会、ウォーキングのリーダー（企画）をするための講習会なども開催されています。

フットパスは田園地帯等にあるものだと思っていたのですが、町の中の住宅地の中にもあることに驚きました。散歩や通勤・通学に気軽に使えますので、日常生活の生活環境を充実させる場ともなっています。写真a～fは、私から家から大学に行くまでの間に歩くフットパスの様子です。バスが走るような幹線道路のすぐ脇にある細長い緑地帯（幅20m、長さ500m程）ですが、特別に郊外に出かけなくても気持ちよいひと時を過ごせます。豊かなイギリスの日常生活を支える都市空間の一つがこういったフットパスであることは、これからの日本の住環境を考えるにあたって大いに参考にしたいものです。

report

住居学科 准教授 葉袋 奈美子

Vertical Review 2017 Summer を開催しました

8月5日(日)午後、住居学科の学年を縦断する合同講評会 (Vertical Review) が樟溪館で行われました。

普段は学年ごとに別々に設計課題に取り組んでいる学生たちにとって、上級生がどのような課題に取り組んでいるのかを目のあたりにすることは、近い将来の自分をイメージすることにも繋がりますし、また少しレベルの高い設計課題の内容に触れることで建築設計の奥深さを垣間見れたのではないのでしょうか。上級生にとっても、かつて自分も取り組んだ課題を振り返ることで、自身の成長を確かめ、今ならどう応えるのか考える頭の柔軟運動になったのではないかと思います。

当日は、住居学科の専任教員一同に加えて普段は一学年しか担当されていない非常勤の先生方にも多数お出でいただき、選抜された学生によるプレゼンテーションと先生方による熱のこもったコメントの応酬が長時間に渡って続きました。

report

住居学科 准教授 片山 伸也



Vertical Reviewの様子

住居学科スタッフより



大塚 順子 助教

住居学科スタッフに加わりました

住居学専攻(大学院修士課程)を卒業後、助手として4年間勤務しました。その後、大学を離れ、数回の引越し、出産や育児を経験して、地域と住まい、人とのかかわりについて考えながら、高齢者の住環境に関する研究を継続してきました。昨年からは、非常勤講師として住居学科にかかわっておりましたが、縁あって10月20日に助教として着任いたしました。住居学科の先生方から学んだ生活者として視点や家政学の知識が、日々の生活でいかに大

切かということを感じています。これからは、学生の皆さんの大学での学びが社会に出た際の貴重な財産となるように少しでもお力になればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2018年 住居学科中央研究室は、江川紀美子助教、大塚順子助教、古賀恵理子助手、佐々木貴子助手の4名のスタッフでスタートします！
よろしくお祈りいたします！